

我が校の強み弱み分析・評価シート

○調査目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

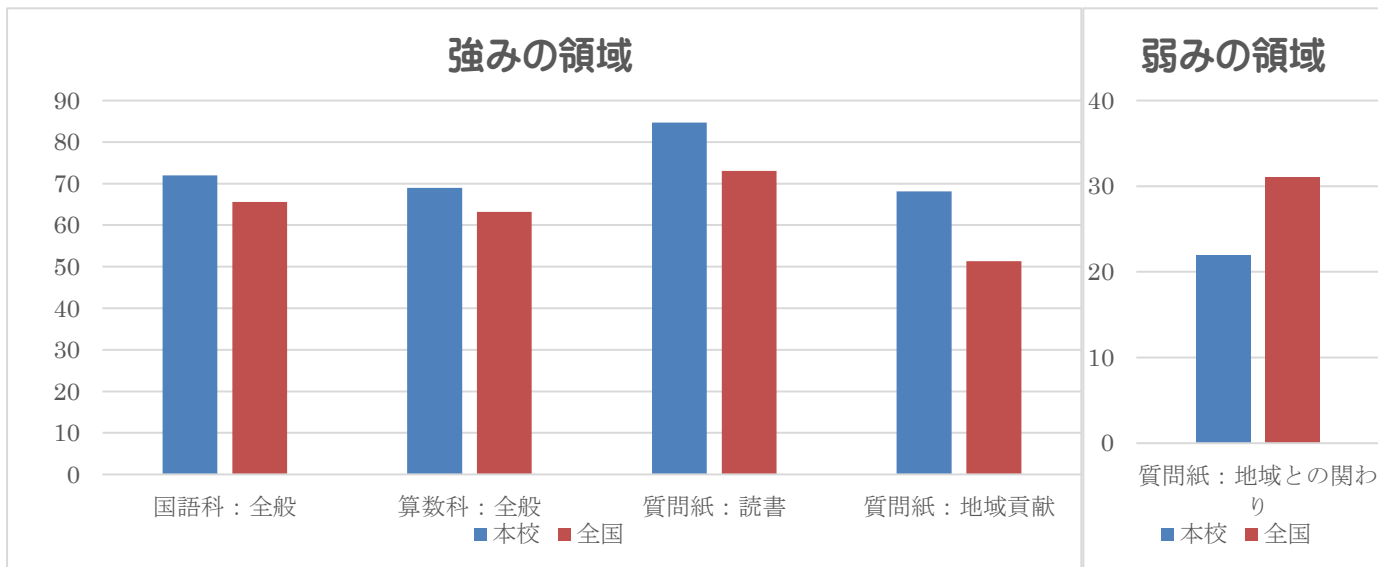
《概要》

- ・学力調査結果から見た学力について、国語、算数は、全国平均と比較してきわめて良好な状況であり、理科は、全国平均とほぼ同様の結果である。
- ・基本的な生活習慣や「早寝・早起き・朝ご飯」が定着していること、また、家庭での予習や復習の習慣が身についている児童が多いことがあげられる。

《○強み・●弱み》

- 国語・算数ともに正答率が高く、知識及び技能、思考力・判断力・表現力ともに良好な結果が得られている。
- 全国比で、読書が好きだと答えている児童の割合が高い。
- 全国比で、地域や社会をよくしていくために何をすべきか考えることがあると答えている児童の割合が高い。
- 全国比で、普段から地域の大人との関わりがあると答えている児童の割合がやや低めである。

◇強み・弱みグラフ◇



【指導の充実に向けて】

- ・「地域との関わり」については、全国的にコロナ禍以前の値を下回り、本校も同様である。以前は実施できていた地域の方の出前授業や、地域の行事等が中止になっていることが一つの要因としてあげられる。普段の関わりについても、今の時代、不審者等の問題もあり難しい面があるが、コミュニティースクールの活動を手掛かりとして、子どもと地域の方々がつながれるような取り組みを、今後も子ども・地域の方とともに考えていきたい。
- ・主体的な学習につながるような課題や目標を設定し、ふり返りを大切にした授業に取り組む。
- ・今後も「朝読書」や「隙間読書」等の活動を充実させ、読書に親しめる環境づくりに努める。
- ・今後も家庭との連携を密にし、児童の基本的な生活習慣の確立に努める。